

## 花葉会賞受賞者紹介

### 園芸・造園を通じた人生 板倉信夫氏

横井政人

#### 板倉信夫氏の略歴

昭和6年9月4日 茨城県に生れる  
昭和24年3月 取手第一高等学校卒業  
昭和29年3月 千葉大学園芸学部園芸別科修了  
昭和30年4月 藤田興業株式会社(現藤田観光株式会社)  
箱根小涌園熱帯植物園主任  
昭和44年4月 藤田観光株式会社造園部  
昭和61年12月 有限会社東洋緑地代表  
平成5年4月 株式会社学園商事造園部長  
平成12年3月 退職  
平成12年4月 株式会社水庭農園技術顧問  
平成16年4月 日本造園修景協会茨城支部事務局  
・評議委員

氏は戦後の熱帯植物の栽培が少なく、まだ観葉植物がひじょうに貴重な時代に、箱根小涌園に勤務。箱根の温泉熱を利用した熱帯植物園の主任として長くその栽培、普及に努められ、熱帯観光園として魅力的な地位を築かれた。当時のペゴニア園は、私にも思い出深い。

さらに、造園修景、緑化事業にも力を入れ、全国リゾート施設造成、山岳地のレクリエーション計画、暮らしのある庭・家庭を創る小さな庭づくりなどに参加し、花や樹木を利用した環境美化の仕事に従事された。

また海外技術協力協会に参加し、イラク、中国の園芸・造園技術者教育にもあたられている。

最後の仕事として、茨城県の植物園熱帯植物館設立、つくば研究学園都市の緑化、緑地管理などに従事された。

氏は温厚で誠実な態度でこれらの事業の数々をみごとにこなされた。それらの業績は地味ではあるが、すばらしいものである。



花葉会賞を贈呈される板倉信夫氏

### 38年間中学理科教育につくされた 河野幹司・省子夫妻

岩佐吉純

#### 河野幹司氏略歴

昭和8年2月8日 東京・新宿にて生まれる  
昭和26年3月 埼玉県立浦和高等学校卒業  
昭和30年3月 千葉大学園芸学部卒業  
昭和30年4月 鳩ヶ谷市立鳩ヶ谷中学校赴任  
昭和42年4月 同校理科主任  
昭和53年4月 鳩ヶ谷市立里中学校に転任  
昭和54年10月 文部省派遣海外事情視察でアメリカに出張  
昭和57年4月 同校教頭  
昭和57年4月 埼玉県理科教育研究会常任理事  
昭和63年4月 鳩ヶ谷市立八幡木中学校校長で赴任  
平成3年4月 元の鳩ヶ谷市立鳩ヶ谷中学校校長で赴任  
教育委員会、生徒指導委員会委員長・青少年問題協議会委員・科学教育振興展覧会委員長・教育研修会会長・全国中学校理科教育研究会実行委員会副会長  
平成4年 鳩ヶ谷市交通安全対策推進協議会より交通安全功労者として表彰される  
平成5年3月 退職

この度、河野幹司君が花葉会賞を受賞される栄誉となった。昭和38年に1期下の深谷省子さんさんと結婚、一男一女の家庭を作ったが、お二人はともに中学校教諭として教育に捧げた人生を歩まれた。花葉会の総会にもいつも二人で出席、仲睦まじい姿を多くの方が眼に留めておられると思う。本来お二人に賞を差し上げるのが筋かも知れないと思い、あえて表題には河野幹司・省子夫妻とした次第である。

昭和30年度園芸学部の卒業生は、アルファ会と名づけた親睦クラス会をもっており、その会報も今年で28号となっている。その中の高野君の近況を見ると、



懇親会で挨拶される河野幹司氏

「暇をつくっては近郊の山歩き、年2~3回は海外のトレッキング、サボりながらのランニング等々が変化のなくなった日々のスパイスです。今年（H15年）6月にエベレスト東側の谷へ花を見に行く予定がSARSのため中止。代わりに出かけたパキスタンの氷河歩きの旅は、2つの氷河を結ぶ130kmに及ぶ長大なトレッキングで、かなり危険で苦しい旅でした。だが、5,100mの雪と氷のヒスパー峠を越えて、多くの高山植物とも出会う楽しい旅でした。当方ヒマラヤ通いは止められません。最近になって、元気な人はいつも未来に対して具体的な夢と目標をもっているということに気づきました。幾つまで頑張れるかなと思い始めたら駄目なようです。限界を意識せず、目標をもとうと思います」とあった。

人生経験のつもりの松戸二中の教育実習が楽しく、これこそ我が一生の仕事とほれこんだのが教員の始まりとなった由。理科部の子供たちと山野を駆け巡り、県の科学展で金賞、特別賞を受賞したり、教員生活中最も生き生きとした時代があった。

次いで中堅といわれた世代、学級経営・教育評価等の研究に目を向け、校内研修に努力した日々は充実した時期であった。

新設の里中学校に転任。やる気満々で全力で学校づくりに励み、教頭になり、ついで八幡木中学校校長として栄転。しかし経営として乏しい予算・給食、国旗・国歌の問題等、厳しい日々の連続。これを乗り越えて、最初に赴任した鳩ヶ谷中学校校長として転勤。これは本来楽しいはずが、問題を抱えた学校で、悪戦苦闘の毎日であった。

以上から、中学校とはいえ一つの会社としての仕事と全く同じ経験をされ、この経営を成功された結果を生み出したと考えられる。子供の教育がいかに大切か、親が子供に対してどのような教育をしているのか、つくづく思い知らされる河野君の仕事である。最も大切な小学校から、義務教育最後の中学校でいかに指導し、その基礎に立って、将来に向けて羽ばたく人をつくった河野ご夫妻に心からエールを送りたい。

.....

## 人につくし、産地を育てる人

### 原 幹博氏

村 井 千 里

#### 原 幹博氏略歴

昭和14年12月18日生まれ  
 昭和33年3月 愛知県立一宮高等学校卒業  
 昭和37年3月 千葉大学園芸学部卒業  
 名古屋大学農学部園芸教室（教務員）を経て  
 昭和45年5月 愛知県農業総合試験場園芸研究所  
 花き研究室技師  
 昭和49年4月 同上 普及指導部専門技術員（花き）



懇親会で挨拶される  
原 幹博氏

昭和57年4月 農水省野菜試験場施設栽培部  
花き栽培研究室室長  
 昭和61年4月 愛知県農業総合試験場普及指導部  
専門技術員（花き）  
 平成2年4月 同上 園芸研究所花き研究室室長  
 平成6年4月 同上 花き研究所所長  
 平成10年4月 同上 副場長  
 平成11年4月 同上 場長  
 平成12年3月 愛知県退職  
 平成12年4月 J A 愛知経済連園芸部花き課  
技術主管 現在に至る

原さんは、現在は愛知経済連の花の技術主管として、親子三代にわたる生産者と交流され、私達技術屋にとって“羨ましい”毎日を送っておられます。

略歴を見てもお分りの通り、名古屋大学園芸教室（洋ランの無菌発芽の研究）、愛知県農業総合試験場花き研究室（キクの周年生産技術の確立、ウイルスフリー化の研究）に従事し、理論と実際が一致しない農業生産技術の問題点の解明に正面から取り組まれました。

生産者の一人ひとりと交流し、現地を見、問題点を分析してその解決にあたり、生産者の信頼を得、生産意欲を高揚されました。

専門技術員に34歳でなられ、武豊町のカーネーション二峯団地の育成に成功されたのも、研究室時代に培った、人に尽くし、産地を育てるという姿勢からの結果でしょう。原さんのこの姿勢は農水省野菜試験場栽培部の室長、愛知県総農試に戻られてからの花き研究所設立、初代花き研究所長、総農試副場長、場長時代の部下を育て、生産者の支援の多い試験場として成果を挙げる、ということに成功された基であろうと推想しています。また、いまだに生産者に慕われるよき指導者として、現役を続けられるのも当然のこと。ますますのご活躍を願っております。

.....

## 植物園の発展に貢献した

### 高林成年氏

長 岡 求

#### 高林成年氏の略歴

昭和15年7月16日 静岡県浜松市生まれ

昭和38年3月 千葉大学園芸学部園芸学科卒業  
 昭和40年3月 京都大学大学院農学研究科修士課程修了  
 同年 京都大学農学部助手  
 同年 京都府立植物園 温室係員として、熱帯、  
 亜熱帯植物の収集・調査・保存・育成管理、  
 園芸の普及・啓蒙に努める  
 平成5～12年 京都府立植物園園長  
 平成7～10年 〇日本植物園協会副会長  
 平成10～12年 〇日本植物園協会会長  
 平成12年 京都府立植物園退職  
 平成12～16年 大阪テクノホルティ園芸専門学校校長  
 平成13年～ 高知県立牧野植物園評議委員  
 平成15年～ NPO法人 京の園芸福祉研究会 副理事長  
 平成16年～ 大阪テクノホルティ園芸専門学校  
 名誉校長・顧問

#### 著書

- ・「四季池坊いけばな花材事典夏・秋」講談社 共同監修 (2004年)
- ・「山溪カラー名鑑 観葉植物」山と溪谷社 監修・著 (1997年)
- ・「覚えたい観葉植物のテクニック」NHK出版 共著 (1994年)
- ・「園芸植物大辞典」小学館 分担執筆 (1994年)

#### 海外調査

- ・1980年 イギリス、オランダ、スイス、デンマーク、  
ドイツ、フランス、ベルギー各国の植物園  
施設調査
- 1992年 ウガンダ共和国へ、植物調査
- 1997年 中華人民共和国へ、植物調査
- 1998年 ブラジル連邦共和国へ、植物調査
- 1999年 南アフリカ連邦共和国へ、植物調査
- 2000年 ベリーズ国へ、植物調査

高林成年氏は千葉大学卒業後、京都大学の修士課程に進み、京都府立植物園に勤務。亜熱帯から熱帯植物といった温室植物の収集や保存、管理全般を担当。平成5年には植物園長に就任されたが、その前年にオー

ブンした観覧温室と植物園会館は氏の貢献によるところが大きい。観覧温室は植物の種類のはやうに及ばず、原生地やその生態を意識した区分けに従って植栽がなされ、植物の維持管理も卓越しており、現場を知る高林氏ならではの展示である。また、植物園会館は展示会を開催する展示室、園芸書やビデオブースを備えた園芸サロン、100席を超えるレストランなどの施設からは、来園者の利便性を意識していることが窺い知れる。

植物園長に就任した2年後の平成7年からは〇日本植物園協会の副会長、会長を歴任し、また熱帯各地の植物調査にも参加するなど、植物園業界の発展に寄与し、京都府立植物園を退職後は大阪テクノホルティ園芸専門学校の校長を務めるなど、後進の指導にも貢献されてきた。また、氏は温室植物のスペシャリストとしても著名で、多くの書籍・雑誌に執筆や寄稿を行い、その啓蒙や普及に努められた。

現在は大阪テクノホルティ園芸専門学校校長も退職し、すべての公職を離れ、ときどきNPO法人京の園芸福祉研究会におけるボランティア活動や講演、大阪テクノホルティ専門学校の授業など、ゆっくりしているとおっしゃっているが、未だに植物園について熱弁を振るうことが多く、その思いの深さが推測される。



花葉会賞を贈呈される高林成年氏



## 明日の園芸を創るパイオニア

(株)ハーベストガーデンシステムズ  
 〒156-0044 東京都世田谷区赤堤1-18-23  
 代表取締役 松田 一良  
 TEL 03-3425-8987 FAX 03-3425-8953